

香川労働局発表
令和8年10月2日(金)
午前8:30解禁

1. 労働市場

(1) 概況 有効求人倍率 1.38 倍 (前月を 0.02 ポイント上回る)全国 8 位

8月の香川県の有効求人倍率(季節調整値で前月比)は、1.38 倍(全国 8 位)と前月より 0.02 ポイント上昇した。平成 23 年 8 月以降、181 か月連続で 1 倍台となっている。

新規求人(原数値で前年同月比)は、産業別では、卸売業、小売業、運輸業、郵便業、医療、福祉等で増加し、サービス業(他に分類されないもの)、宿泊業、飲食サービス業、建設業等で減少となり、全体で 4.4%減と 2 か月ぶりに減少した。有効求人(原数値で前年同月比)は、0.7%減と 7 か月連続で減少した。新規求職(原数値で前年同月比)は 1.0%増と 2 か月ぶりに増加、有効求職(原数値で前年同月比)は 3.3%増と 12 か月連続で増加した。

公共職業安定所別の有効求人倍率(原数値)は、高松 1.48 倍、丸亀 1.28 倍、坂出 1.45 倍、観音寺 1.27 倍、さぬき 0.88 倍、土庄 1.62 倍となった。

正社員の有効求人倍率(原数値で前年同月比)は、1.23 倍と 0.01 ポイント上昇した。正社員の新規求人は 6.1%減、非正社員の新規求人は 2.7%減となったことから、新規求人に占める正社員求人の割合は 50.6%と前年同月より 0.9 ポイント低下した。

このことから、香川県の雇用情勢判断を「求人が求職を上回って推移しているものの、このところ持ち直しの動きに弱さがみられる。今後も物価上昇等が雇用に与える影響に留意する必要がある。」とした。

○ 有効求人倍率の推移(季節調整値)

	7 年 8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	8 年 1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
香川県	1.45	1.44	1.42	1.39	1.41	1.43	1.40	1.40	1.39	1.36	1.39	1.36	1.38
四 国	1.30	1.31	1.29	1.28	1.30	1.30	1.30	1.30	1.32	1.30	1.31	1.29	1.29
全 国	1.21	1.20	1.19	1.19	1.20	1.18	1.19	1.18	1.18	1.17	1.18	1.18	1.18

(注) 1. 新規学卒者を除き、パートタイムを含む全数。 2. 令和 7 年 12 月以前の数値は、新季節指数により改定。
3. 有効求人倍率(季節調整値)の季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による。

(2) 正社員の職業紹介状況 有効求人倍率 1.23 倍 (前年同月を 0.01 ポイント上回る)

正社員の有効求人倍率は 1.23 倍となり、前年同月を 0.01 ポイント上回った。2 か月連続で前年同月を上回った。

項 目	年 月	8 年 7 月	8 年 8 月	7 年 8 月	前年同月比、差 (%、ポイント)
正社員新規求人数	(人)	4,457	3,640	3,876	▲6.1
正社員有効求人数	(人)	11,503	11,454	11,067	3.5
正社員就職件数	(件)	446	365	371	▲1.6
常用フルタイム有効求職者数	(人)	9,404	9,334	9,103	2.5
正社員有効求人倍率	(倍)	1.22	1.23	1.22	0.01
正社員充足率	(%)	10.0	10.0	9.6	0.4

(注) 1. 正社員有効求人倍率=正社員有効求人数/常用フルタイム有効求職者数(なお、常用フルタイム有効求職者にはフルタイムの派遣労働者や契約社員を希望する者も含まれているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる)
2. 充足率=正社員就職件数/正社員新規求人数×100

(3) 求人の動向

新規求人数 7,196 人（前年同月比 4.4%減少）

パートを含む新規求人(原数値)は、前年同月比 4.4%減と 2 か月ぶりに減少した。産業別では、建設業 (7.8%減)、製造業 (2.5%増)、情報通信業 (30.2%増)、運輸業、郵便業 (14.9%増)、卸売業、小売業 (16.6%増)、宿泊業、飲食サービス業 (31.4%減)、生活関連サービス業、娯楽業 (1.6%減)、医療、福祉 (1.8%増)、サービス業 (28.7%減) 等となった。

○産業別新規求人数の前年同月比の推移

産 業	8年3月	8年4月	8年5月	8年6月	8年7月	8年8月
農 林 漁 業	11.1	119.2	▲ 23.0	17.0	6.3	19.3
鉱 業 , 採 石 業 , 砂 利 採 取 業	50.0	▲ 100.0	-	0.0	▲ 100.0	-
建 設 業	▲ 2.1	▲ 9.0	▲ 3.6	2.2	0.5	▲ 7.8
製 造 業	▲ 3.7	1.8	8.3	▲ 0.8	1.9	2.5
食 料 品 製 造 業	▲ 2.2	▲ 8.8	▲ 14.4	▲ 3.0	▲ 32.6	▲ 3.6
繊 維 工 業	▲ 14.8	0.0	11.5	30.8	15.6	▲ 23.1
パルプ・紙・紙加工品製造業	▲ 8.5	▲ 13.8	58.5	▲ 36.0	41.5	50.8
印 刷 ・ 同 関 連 業	▲ 3.9	▲ 23.2	2.5	36.4	▲ 13.9	15.2
プ ラ ス チ ッ ク 製 品	▲ 20.0	11.6	44.4	▲ 21.4	5.6	25.8
金 属 製 品	▲ 30.6	8.6	12.4	▲ 7.4	17.0	▲ 4.5
は ん 用 機 械 器 具	22.9	9.2	29.2	▲ 29.7	24.5	25.6
生 産 用 機 械 器 具	11.8	▲ 2.8	▲ 6.3	▲ 14.6	56.5	▲ 14.3
電子部品・デバイス・電子回路	▲ 27.8	262.5	▲ 27.3	38.5	29.2	7.7
電 気 機 械 器 具	52.6	18.0	25.8	8.8	15.9	▲ 22.8
輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業	▲ 13.1	▲ 5.9	20.7	11.9	▲ 30.8	▲ 6.0
電気・ガス・熱供給・水道業	21.4	▲ 66.7	66.7	50.0	▲ 57.1	450.0
情 報 通 信 業	242.9	▲ 5.3	3.9	31.6	145.0	30.2
運 輸 業 , 郵 便 業	▲ 35.7	24.5	1.9	▲ 4.0	12.9	14.9
卸 売 業 , 小 売 業	▲ 15.7	15.0	▲ 8.9	▲ 22.2	16.9	16.6
卸 売 業	▲ 36.9	41.1	▲ 15.4	▲ 35.7	6.3	26.3
小 売 業	1.7	0.9	▲ 4.2	▲ 12.2	21.8	10.1
金 融 業 , 保 険 業	▲ 2.8	▲ 33.7	33.3	▲ 15.0	▲ 48.0	58.0
不 動 産 業 , 物 品 賃 貸 業	▲ 6.4	▲ 23.9	▲ 42.8	▲ 1.9	▲ 14.8	▲ 13.7
学術研究、専門・技術サービス業	11.7	39.8	▲ 12.2	12.2	52.3	▲ 4.2
宿 泊 業 , 飲 食 サービス 業	▲ 3.0	▲ 16.0	▲ 44.8	▲ 1.5	▲ 9.1	▲ 31.4
生活関連サービス業、娯楽業	15.2	7.5	6.1	1.1	▲ 0.7	▲ 1.6
教 育 , 学 習 支 援 業	▲ 15.4	▲ 9.8	▲ 11.4	▲ 19.1	10.6	29.9
医 療 , 福 祉	15.2	1.4	▲ 4.8	14.2	8.6	1.8
医 療 業	11.7	▲ 9.1	▲ 8.5	8.7	7.4	▲ 1.8
社 会 保 険 ・ 福 祉 ・ 介 護	17.0	10.2	▲ 1.5	18.3	9.4	5.4
複 合 サ ー ビ ス 事 業	78.9	▲ 24.3	180.0	▲ 10.5	▲ 16.2	▲ 27.8
サービス業（他に分類されないもの）	▲ 2.2	13.8	▲ 33.9	1.5	▲ 0.8	▲ 28.7
公 務 ・ そ の 他	▲ 11.7	30.5	▲ 23.8	▲ 31.3	▲ 8.3	▲ 31.7

(注) パートタイムを含む全数。 令和5年7月改定の「日本標準産業分類」に基づく区分により表章したもの。

- 建 設 業 求人提出時期のずれ等のため減少した。
- 製 造 業 パルプ・紙加工製造においては求人提出時期のずれ等のため増加、電気機械器具製造においては求人提出時期のずれ等のため減少した。
- 運輸業、郵便業 増員等のため増加した。
- 卸売業、小売業 卸売業においては求人提出時期のずれ等のため増加、小売業においては増員等のため増加した。
- 宿泊、飲食サービス業 宿泊業においては欠員補充等のため増加、飲食サービス業においては一部充足等のため減少した。
- 医 療 , 福 祉 医療においては求人提出時期のずれ等のため減少、福祉においては増員等のため増加した。
- サ ー ビ ス 業 昨年の瀬戸内国際芸術祭に関連する求人の反動等により減少した。

(4) 求職の動向 新規求職者数 3,009 人 (前年同月比 1.0%増加)

パートを含む新規求職者(原数値)は、前年同月比 1.0%増と 2 か月ぶりに増加した。うち、一般求職者は 0.5%増と 2 か月ぶりの増加、パート求職者は 1.8%増と 2 か月連続で増加した。

○職業別常用有効求人倍率 (倍)

専 門 ・ 技 術 的 職 業	2.34
事 務 的 職 業	0.60
販 売 の 職 業	2.12
サ ー ビ ス の 職 業	2.86
生 産 工 程 の 職 業	2.08
輸 送 ・ 機 械 運 転 の 職 業	2.47
建 設 ・ 採 掘 の 職 業	6.52
運 搬 ・ 清 掃 ・ 包 装 等 の 職 業	1.05

(注) 1. 各職業は、雇用期間 4 か月未満の臨時・季節を除きパートを含む常用の原数値。
2. 職業分類は、平成 21 年 12 月改定の「日本標準職業分類」に基づく区分。

※ 職業別の求人・求職の状況について、詳しくは香川労働局ホームページの「事例・統計情報」欄掲載の「労働市場情報」をご覧ください。

(<https://jsite.mhlw.go.jp/kagawa-roudoukyoku/>)

[年齢別の動き]

パートを除く常用新規求職者は前年同月比 0.5%増と 2 か月ぶりに増加した。常用有効求職者は前年同月比 2.5%増と 1 2 か月連続で増加した。

○年齢別常用求職者の前年同月比の推移 (%)

		年 齢 計	24 歳以下	25～34 歳	35～44 歳	45～54 歳	55 歳以上	60 歳以上
常用 新規 求職	8 年 4 月	▲0.5	▲1.4	4.0	▲0.9	▲1.3	▲2.4	▲1.4
	5 月	▲8.0	▲10.7	▲7.5	▲8.8	▲15.0	0.4	2.6
	6 月	6.7	▲9.9	7.5	4.4	14.1	8.3	7.8
	7 月	▲6.7	▲14.1	▲11.0	▲8.1	6.9	▲10.2	▲13.7
	8 月	0.5	▲2.5	▲2.4	▲3.6	7.3	1.6	8.0
常用 有効 求職	8 年 4 月	4.2	▲2.5	3.7	3.1	3.5	8.4	5.6
	5 月	5.5	▲1.5	3.4	2.4	5.3	12.5	11.0
	6 月	5.0	▲3.1	1.5	6.0	4.7	10.9	9.5
	7 月	2.6	▲4.6	▲3.4	3.4	7.0	6.0	3.3
	8 月	2.5	▲5.2	▲4.6	4.4	6.9	6.8	5.3

(注) 雇用期間 4 か月未満の臨時・季節及びパートを除く、常用。

[求職理由別の動き]

パートを除く常用新規求職者のうち、在職者は前年同月比 1.2%減と 2 か月連続の減少、離職者は 0.6%減と 2 か月連続で減少した。うち、事業主都合離職者は 11.8%減と 4 か月連続の減少、自己都合離職者は 2.3%増と 2 か月ぶりに増加した。無業者は 22.2%増と 3 か月連続で増加した。

○求職理由別常用新規求職者の前年同月比 (%)

		年 齢 計	24 歳以下	25～34 歳	35～44 歳	45～54 歳	55 歳以上	60 歳以上
計		0.5	▲2.5	▲2.4	▲3.6	7.3	1.6	8.0
求 職 理 由	在 職 者	▲1.2	▲20.5	▲12.4	16.1	▲12.3	28.9	33.3
	離 職 者	▲0.6	19.8	1.8	▲12.3	15.0	▲12.3	▲5.6
	事業主都合	▲11.8	50.0	17.4	▲30.4	▲10.9	▲13.6	▲5.9
	自己都合	2.3	18.8	0.0	▲5.4	22.5	▲15.1	▲6.6
	無 業 者	22.2	▲20.0	33.3	▲22.7	123.1	57.9	90.0

(注) 雇用期間 4 か月未満の臨時・季節及びパートを除く、常用。

(注) 令和 3 年 9 月以降の数値より、オンライン上で求職登録した求職者数が含まれている。

(5) 就職の動向 就職件数 881 件 (前年同月比 3.8%増加)

パートを含む就職件数は、前年同月比 3.8%増と 2 か月ぶりに増加した。うち一般は 0.9%増と 8 か月ぶりの増加、パートは 7.0%増と 2 か月ぶりに増加となった。

パートを含む新規就職率は 29.3%で、前年同月を 0.8 ポイント上回った。

○就職件数の前年同月比 (%)

	全 数	一 般			パート
			44 歳以下	45 歳以上	
8 年 4 月	▲6.4	▲3.9	6.3	▲13.5	▲9.1
5 月	▲8.8	▲5.6	▲16.3	4.9	▲11.9
6 月	1.3	▲1.4	0.4	▲3.2	4.1
7 月	▲8.2	▲6.1	▲9.2	▲3.1	▲10.4
8 月	3.8	0.9	▲10.0	13.3	7.0

(注) 令和 3 年 9 月以降の数値より、オンライン上で求職登録した求職者がハローワークインターネットサービスの求人に直接応募した就職件数が含まれている。

(6) 雇用保険関係 受給者実人員 3,982 人(前年同月比 5.5%増加)

[受給者実人員の動き]

受給者実人員は、前年同月比 5.5%増と 1 4 か月連続で増加した。

○年齢別受給者実人員 (人、%)

	受給者実人員	前年同月比
年 齢 計	3,982	5.5
29 歳以下	562	0.4
30～44 歳	935	5.9
45～59 歳	1,480	9.1
60 歳以上	1,005	3.2
44 歳以下	1,497	3.7
45 歳以上	2,485	6.7

[事業主都合離職者の動き]

事業主都合離職者数は、前年同月比 16.5%増と 2 か月連続で増加した。

建設業は 2 か月ぶりの増加、製造業は 3 か月連続の増加、運輸、郵便業は 2 か月ぶりの減少、卸売・小売業は 2 か月連続の増加、宿泊業、飲食サービス業は 3 か月連続の減少、医療、福祉は 2 か月連続の減少、サービス業は 2 か月ぶりに減少した。

○産業別事業主都合離職者 (人、%)

	事業主都合離職者数	前年同月比
産 業 計	134	16.5
建設業	11	10.0
製造業	54	200.0
運輸、郵便業	5	▲54.5
卸売・小売業	26	18.2
宿泊、飲食サービス業	3	▲62.5
医療、福祉	12	▲33.3
サービス業	5	▲68.8

(注) 1. 「高年齢+特例」被保険者を含む。

2. 経済情勢（2026 年 9 月 1 1 日 日本銀行高松支店「香川県金融経済概況」より抜粋）

概 況

- 香川県内の景気は、持ち直している。

すなわち、設備投資は増加している。個人消費は緩やかな増加基調にある。住宅投資は弱い動きとなっている。公共投資は持ち直している。こうした中、企業の生産は横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得情勢は、緩やかに改善している。

実体経済

- 最終需要の動向をみると、以下のとおり。

設備投資は、増加している。6 月短観における設備投資（全産業）をみると、2026 年度は、前年を上回る計画となっている。

個人消費は、緩やかな増加基調にある。大型小売店の売上は、緩やかな増加基調にある。コンビニエンスストア売上高は、底堅く推移している。乗用車販売は、持ち直している。家電販売は、足もと増加している。サービス消費は、回復を続けている。

主要観光地の入込客数（5～7 月）は、前年を下回った。

住宅投資は、弱い動きとなっている。

公共投資は、持ち直している。

- 企業の生産は、横ばい圏内の動きとなっている。
化学は、増加している。食料品は、横ばい圏内の動きとなっている。汎用・生産用機械は、持ち直しの動きがみられる。金属製品は、弱めの動きとなっている。電気機械は、緩やかに持ち直している。輸送機械は、生産水準が幾分上昇している。
- 雇用・所得情勢は、緩やかに改善している。
- 消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、1%台半ばのプラスとなっている。